



○「出船に揃える」

新規採用となって赴任した隠岐水産高校で、今でも印象に残っていることの一つにトイレがあります。トイレ用スリッパに履き替える際、床に「出船に揃えよ」と書いてあったのです。



出船とは、船が港に停泊中、船のへさき、つまり船首を港の出口に向けている状態のことを言います。それは、すぐに出港できる状態です。トイレにおいては、次に来る人のため、その人が履き替えてから方向転換しなくてもよいようにスリッパを揃えておくことです。とも、つまり船尾を港の出口に向けている入船の状態ならば、履き替えてから方向変換をする必要が生じます。自分のことだけ考えれば、トイレを出る際に入船状態でスリッパを脱ぐ方が楽です。「出船に揃えよ」は、小さな気遣いを促す言葉でもあります。

玄関の履物が乱雑になっている家を訪問した際に、あまり良い印象は持たないと思います。一方、玄関で履物を脱ぐ際に、出船に向きを変えて揃え直すような人には好印象を持ちやすいものです。玄関とトイレは、またそこでのふるまいは、その人やその家、学校などの評価が簡単に下される場所であるとも言えます。

脚下照顧(きゃっかしょうこ)という禅宗の言葉があります。「履物を揃えよ」という意味もありますが、「自分の足元をよく見よ」という意味もあります。足元はとにかく注意が行き届きにくい場所です。だから、面接などでは、靴が磨かれているか、場に合った靴かどうかは大事になってくると思っています。相手の弱みを見つけ、付け込むことを意味し、「足下を見る」と書くこともあります。それだけ足元は大事です。立ち止まって自分の足元をよく見てみる。足元、つまりこころが乱れていないかどうか見る心の余裕はあるのか。靴を揃えるような心の余裕や優しさはあるか。その人を映し出すのが足元でもあります。

「足元を見る」の由来は、宿場町で旅人の足元の汚れ具合から疲れ具合を判断して、疲れてすぐ休みたい状態と判断すれば宿代を高くしたことから来ているそうです。

永平寺の開祖の道元は、日々の修行に「履物を揃える」ということを組み込んでいたそうです。次の詩は、その教えを長野県円福寺の住職がわかりやすく表現したものです。

はきものをそろえると 心もそろう 心がそろくと はきものがそろう
ぬぐとくにそろえておくと はくときに心がみだれない
だれかが みだしておいたらだまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと世の中の人の心もそろうでしょう